

共催：日本リアルオプション学会「価値創造のイノベーションと戦略」研究部会
日本リアルオプション学会「エンターテインメント・ビジネス」研究部会
早稲田大学ファイナンス稲門会

テーマ：『多死社会の到来は日本に何をもたらすか？』

講師：藤 和彦 氏 経済産業研究所 上席研究員

司会：小林 孝明 氏 NRI（株）野村総合研究所 上級研究員

日時：2018年9月13日（木）18:30～20:00（受付時間：18:15～18:45）

場所：野村総合研究所 29F 大会議室 12

千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ

交通アクセス：http://www.nri.com/jp/company/map/nri_grandcube.html

要旨：日本は5年後から「多死社会（約50年連続で年間150万人以上が死ぬ）」に突入する。家族のシェルター機能が弱まる状況下で、介護・看取り・葬送のネットワークは「血縁」から「結縁」に変わっていかざるを得ない。また団塊世代（生産性重視の思考が強く死生観が希薄）を中心に「積極的安楽死」を求める声が高まることも予想される。このように隠蔽されてきた「死」が社会に回帰することになれば、世の中の価値は「生産性」一辺倒から「関係性」などを含めた多様なものに変化していくのではないだろうか。

一方多死化とともに進展するAI化により、「死」の価値が高まる可能性がある。寿命知らずのAIは人間的な深い共感を理解できないからである。汎用AI時代が到来すれば、AIが真似できない「死の意識に裏打ちされた美意識」が人間の強みになるのではないか（知識社会から美意識社会へ）。

多死社会がもたらす価値観の転換や「関係性」の組み替えを促進するため、仮想通貨の戦略的活用が有益であることも指摘したい。

- ・ 参加費：無料（お一人100円程度の資料代など実費カンパをお願いします）
- ・ 定員：30名（予定）
- ・ 研究会への参加申込み先／お問い合わせ先：
日本リアルオプション学会ホームページ <http://realopn.jp> の「公開研究会のお申し込みはこちらへ」の申込みページからお願いいたします。

※ 本研究会は、学会員以外の方にも公開されております。参加をご希望の方は必ずお申込みをし、ご登録ください。定員になりましたら、お断りする場合がありますこと、ご了承ください。

※ セミナーに関するお問い合わせは学会（03-3551-9893または、info@realopn.jp）へお願いいたします。会場である野村総合研究所には問い合わせをしないようお願いいたします。

※ ご参加の方は、グランキューブ 1F「野村総合研究所」受付前にてご案内いたしますので、受付時間：18:15～18:45 においでください。